

G A P に対する消費者評価

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

消費者の食の安全・安心への関心が高まる中、農業生産現場においてはG A P（Good Agricultural Practice，農作業工程管理）に取り組み、安全な農産物生産のための生産管理を実施することが求められている。しかし、消費者が実際にG A Pをどのように評価するかは明らかになっていない。そこで、消費者モニターへアンケート調査を実施し、G A Pに対する消費者評価を明らかにしたので参考資料とする。

2 参考資料

1) G A Pに取り組んで生産された農産物は、そうでない農産物に比べると消費者評価が高くなる。

2 地区の消費者モニター（仙台，首都圏）のG A Pの認知度は低く、意味を含めて知っていた回答者は全体の1割以下である（図1）。しかし、G A Pの内容について説明の後、G A Pに取り組んで生産された農産物の評価額を2つの質問形式で調査すると、いずれの地区の消費者モニターもG A Pに取り組んでいない農産物と比べると高く評価する（表1，2）。

2) 国産農産物でもG A Pに取り組まない場合、消費者評価は、G A P認証で安全性を担保した海外産農産物と同等になる。

消費者が農産物（トマト）を選定する際に重視するのは、安全性>環境にやさしい栽培>値段の安さの順となる。安全性の中で重視するのは、農薬（残留が基準を超えないこと）>食品衛生（病原微生物に汚染されていないこと）の順となる（表3）。

国産・輸入別、G A P認証の有無別のトマトに対する消費者評価は、高い順に、国産G A Pあり>国産G A Pなし>韓国産G A Pあり>韓国産G A Pなしとなる。しかし、「国産G A Pなし」と「韓国産G A Pあり」の差は小さい。「国産G A Pなし」の評価が高くなった理由は「値段の安さ」に対する評価が高かったことで、他の評価基準（安全性、環境にやさしい栽培）で比較するとほとんど差が認められない（図1）。

3 利活用の留意点

1) 本調査は農園研の消費者登録モニターへの郵送アンケート調査により実施した。調査時期は、仙台市在住モニター 平成18年11月（配布数319名，回収率68%）及び平成19年10月（配布数約359名，回収率約68%），首都圏在住モニター 平成19年8月（配布数269名，回収率84%）である。

2) G A Pに取り組んでいる，あるいは認証を有することが購入時にわかる農産物は調査時点でほとんど流通していないが，そのようなものがあるという仮定のもと評価してもらった。

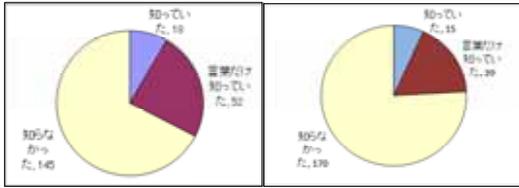
3) G A Pを普及推進する際の参考資料として活用できる。

4) 「生産者のG A Pに対する意識」については，普及に移す技術 第82号に参考資料として掲載されている。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部 電話022-383-8119）

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 宮城県版野菜GAPの確立(平成18~20年度)
- 2) 参考データ



仙台モニター 首都圏モニター

図1 消費者のGAPの認知状況

表1 支払カード形式によるGAPの付加価値(基準:通常栽培トマト(1個100円))

モニター	付加価値を認めている回答者のみ	全体	標準偏差
仙台	評価額(円/個) ^{注1)} 15.1 (人数) (165人)	12.5 (200人)	0.6116
首都圏	評価額(円/個) ^{注1)} 21 (人数) (192人)	19.1 (211人)	0.7113

調査方法: 通常栽培トマト(1個100円)を基準としてGAPトマトに対する支払意志額を質問した。
 選択肢は1個100円(通常栽培トマトと同じ)から150円まで、5円間隔で設定した。
 調査時期: 仙台モニター平成18年11月, 首都圏モニター平成19年8月
 注1) 評価額: GAPに取り組んでいることで、通常栽培よりも多く支払っていいと考える金額

表2 選択型コンジョイント分析によるGAPの付加価値(基準:通常栽培トマト(1個100円))

モニター	仙台		首都圏	
	宮城県産	A県産 ^{注2)}	宮城県産	B県産 ^{注3)}
評価額(円/個) ^{注1)}	9.9	9.5	14.9	14.1

調査方法: 水準を産地2(宮城県産, 他県産), 栽培方法2(通常, GAP), 価格4(100円, 105円, 110円, 115円)設定し, これらの水準から構成される全16通りのトマトを提示して, 買いたいと思う程度に応じて上位3つを回答してもらった。
 調査時期: 仙台モニター平成18年11月, 首都圏モニター平成19年8月
 注1) 評価額: GAPに取り組んでいることで、通常栽培よりも多く支払っていいと考える金額
 注2) A県: 調査時期(11月)の仙台市場取扱高が宮城県に次いで2位の産地(H17)
 注3) B県: 関東地方において調査時期(8月)における東京都中央卸売市場でのトマトの取扱量が最も多い産地

表3 トマトの選定における重要度

モニター	安全性	環境保全	値段	整合度(C.I)	安全性における重要度	
					農薬	食品衛生
仙台	0.456	0.311	0.234	0.0015	0.527	0.473
首都圏	0.485	0.326	0.189	0.0009	0.542	0.457

C.I<0.1の回答者を集計 調査時期: 仙台モニター平成19年10月, 首都圏モニター平成19年8月

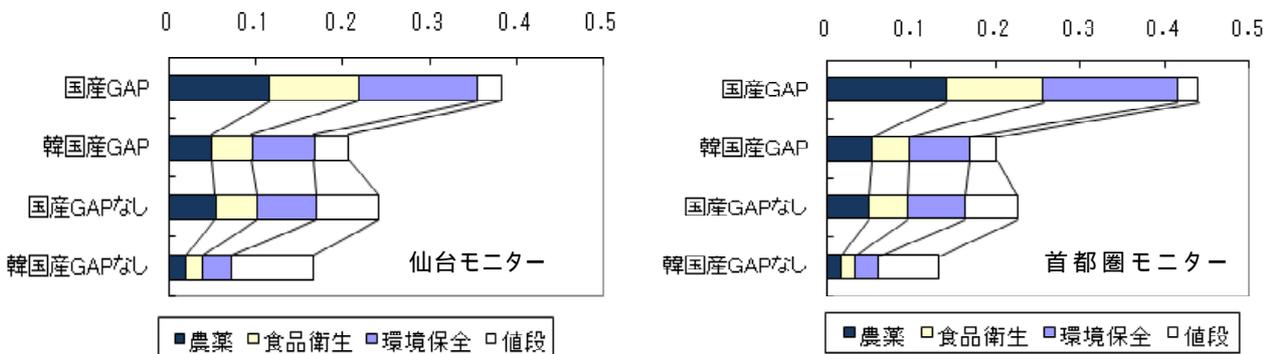


図2 国内・海外産トマトにおける重要度の比較

(調査時期: 仙台モニター平成19年10月, 首都圏モニター平成19年8月)

3) 発表論文等

a その他

- a) Aizaki, H. and N. Sato "Consumers' valuation of good agricultural practice by using contingent valuation and contingent ranking methods: a case study of Miyagi prefecture, Japan," 農業情報研究, 16(3), p.150-157, 2007
- b) 合崎英男, 佐藤典子 表面選好法を利用した適正農業規範の消費者評価 農業経営通信 No.234: p.30-33, 2007